

平成24年度学力向上に向けた取組

函館市立西中学校 学級数 5（特別支援学級1を含む）

視点1：アプローチの視点に基づいた、「組織的」で「つながり」（学びの連続性・学校内外の連携）をもった取組

重点教育目標 自ら考え、進んで学び、生き生きと活動する生徒

A 各教科・領域等における系統性や、他の教科・領域等との関連に配慮する

B 長期的な見通しをもって、学習内容を確実に定着させる

C 校内研究の進め方を見直す

D 授業公開や外部への公開・発信を生かす

取組の概要

1 取組のきっかけ

本校は全校生徒 117 人と小規模校であり、全職員が全ての学級の授業に入り、また、体育祭や地域清掃では縦割り班ということで、生徒とかかわっており、生徒に関することが共通の話題に上るといのが長所である。

ただし、組織的な共通理解の場や具体的な方策について考える場の設定が課題であった。

また、小規模校のために限られた職員のみから見た情報、職員の入替わりも少ないために、指導に客観的な視点を取り入れる方法を新たに加えることとした。

2 取組の位置付け

研究担当を中心とした教務部や必要に応じて生徒指導部も連携して進める。

3 取組の方法

今年度は、これまでの校内研究の一つの全教科授業参観の他に、子ども理解を指導に生かすために、客観的な評価を得ることのできる方法の一つとして Q-U を活用することとした。

金銭的な面では、PTA にも理解を得て、PTA 活動（バザーのような）の収益から負担した。

有効活用できるように、5 月に行った Q-U については、講師を招いて活用の仕方や、全学級の結果を全てコンサルテーションした。

12 月後半に 2 回目を予定している。

各教科等に集団を看取る客観的な評価を生かしながら、指導を進めると共に、11 月に行う全教科の授業参観交流時に生かした点を示し、交流できるようにするなど研究担当を中心に研究を推進していく。

取組の成果と課題等

○ 取組の成果

全職員が、全教科授業参観での相互交流での生徒の学習状況の把握するとともに、Q-U を用いた客観的な分析結果と全学級のコンサルテーションなど、生徒理解面からの学習指導のアプローチを行った。

（成果）→全職員が共通理解の下、以下の点について、生徒への指導や援助を進めている。

特に「不満足群」に入る生徒については、支援の方法を日常から交流する機会が多くなり、また、支援も手厚くなっている。

・生徒の課題や学びの特性をより多面的に把握し、個々の生徒についての具体的な支援の手だてを考えて指導することができた。

・学級経営における課題を把握し、人間関係づくり、日常生活の向上など、より良い学習環境作りを心がけ、意欲や集中力を徐々に高めさせつつある。

・分析による生徒理解をもとに、それぞれの生徒に対して、各授業における教師の支援や関わり方を見直し、意欲や集中力を徐々に高めさせつつある。

※ 1 2 月に第 2 回目を実施予定だったが、行事が錯綜し実施できなかった。

3 学期には第 2 回目を実施して生徒の変容を分析し、今後の指導・支援を考えていきたい。

○ 教育課程検証の方法

1) 学校評価（保護者・教職員・生徒）による検証

2) 全国学力・学習状況調査の分析からの検証

3) 授業時数（月毎）や各行事毎の検証

4) 教育的成果（生徒に身に付けさせたい理解・知識・態度・習慣・技能・鑑賞などの発達が望ましいか）による検証

